

平成27年度 第3回黒潮町総合教育会議議事録

【日時】平成27年10月27日（火）15：40～17：15

【場所】保健福祉センター 2階 健康研修室

【出席者】（町長）

大西勝也

（教育委員会）

坂本教育長

山下教育委員、都築教育委員、濱田教育委員、池田教育委員

（事務局）

武政総務課長、西村課長補佐、谷主幹

（その他出席者）

畦地教育次長

（傍聴者）

無し

【議事】

- (1) 黒潮町総合教育大綱策定等について
- (2) その他

【議事録】

事務局（西村）	<p>平成27年度第3回黒潮町総合教育会議という事で、会議の方を始めて行きたいと思います。</p> <p>レジメの方をお配りしましたが、会場の方が第1会議室ではなく大会議室となっておりますので訂正の方をよろしくお願いします。</p> <p>本日ですが、先月の会議で宿題となっておりますものをもって、大綱の策定に向けての「理念」につきまして、皆さんで具体的に話をしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。それでは町長よろしくお願ひいたします。</p>
町長	<p>少し定刻を過ぎまして、大変申し訳ございませんでした。</p> <p>前回、宿題を出しましたが、自分もこの宿題をクリアするのに大変苦労しまして本当にやっぱり難しいです。難しいからこそ多分整備をする必要があるのかなと思ってまして、時間がかかってもしっかりとした物にしたいと思いますので、また、いろいろご意見を頂きますようお願いいたします。</p>

事務局（西村）	<p>お手元の方に前回の会議で話した際のみなさんの意見等を書いたホワイトボードの写真、それから、それをペーパーにしましたものを今日お配りしています。以前、委員の皆様にお送りしましたものと同じものです。A4の1枚もののペーパーの方には、今ある「教育理念」を上段に、それから中段以降に9月25日の第2回会議で皆さんから出された意見を載せたものとしております。これを参考にご意見等を出していただけたらと思います。</p>
教育委員 （濱田）	<p>私の理念は前回に言ったことをそのまま取り上げました。「黒潮町で生まれた子どもは黒潮町が育てる。大人が子どもの手本となり、黒潮町を愛し、町の発展を願う子に育てる。このように育った子どもはまた、次の世代を担う子どもを育てこれを繰り返して黒潮町の子どもを育てる。」を大まかな理念として、「心豊かでたくましく、優しく故郷をつなぐ黒潮の子」とつけました。</p>
教育長	<p>自分もいろいろ考えてみましたが、今回教育委員会が作った教育振興基本計画、この部分にある文言がやっぱりはずせないと思いました。ものすごくうまく言っているなと言う風に感じてます。と言うのは、国の教育振興基本計画の3つの理念は、うちのと似ていて自立、創造、協働で、うちはその3番目を貢献という形に言い換えている。自立という部分、自分なりに考えたら今言われている「生きる力、生きていく意欲」そういったものを言っていると思います。それから「自分あるいは他人の人権、そんな事も尊重して思いやりをもって生きていく」そういった力、それが自立であると思います。</p> <p>それから、創造。これは未来を切り開いていく意欲、希望ですね。そういったものがテーマではないかなと思います。子どもの可能性という事になると思います。</p> <p>次に、貢献。貢献は主体的に生きていく、社会への参画と意欲という事になるかと思います。だから自立、創造、貢献ははずせないなと思って、まず最初に「自立、創造、貢献」をもってきました。そして、その後に「故郷を愛し社会に貢献する子どもの育成」という一つの案と単純に「故郷をつなぐ」という事にしました。最初の分は、子どもという事に特定をされるのでどうかなという思いがあって、ただ、義務教育の部分を考えて時には、そういった子どもを育成していく事が役割であろうと思いますので、どちらかという「故郷を愛し社会に貢献する子どもの育成」という方がいいのではないかなというふうに考えました。</p> <p>教育の役割は、「故郷をいかに愛していくか」と、そういった子ども</p>

<p>教育委員 (池田)</p>	<p>もを育てていくのがこれからの教育の役割になるという事で、そこへ具体的な施策を持っていくという意味で、なるべく分かりやすい意味合いでつけました。</p> <p>まず、説明文とかも書いてきてなかったなので、この中からピックアップして作ってみました。教育長と同じ言葉が出てきますが、「故郷を愛し、故郷とともに生きる、笑顔を守り育てる町、黒潮町。～人・夢・未来をつなぐ～」です。前回の話で出てきた「故郷を愛する」という言葉を入れたくて、それを入れて「黒潮町を大切に思う子ども」例えば、何処かに出ても本当に心の故郷、ここにまた、帰ってきたいという気持ちを持ってもらえるような子ども、故郷とともに大きくなってもらいたいという気持ちを入れて、子どもたち、黒潮町みんなが笑顔でいられるような町になればと思います。</p>
<p>教育委員 (都築)</p>	<p>今、黒潮町人口、子どもは年々減少の一途をたどっています。私たちは黒潮町の未来を背負っていける人材の育成と同時に地域の存続という目的を同時に解決すべき大きな課題を突き付けられています。地域の子どもの育てるというもっとも大切な部分が崩壊しつつあります。これは我々の責任でもあります。子どもたちが夢を持って学習に取り組み、やがて我が町の核となって次世代へのバトンタッチを受け継いでいけるサイクルを作ることが最も重要な事だと思います。大人が一つの目標を持って子どもたちにこの町の将来を託さなくてはなりません。今、私たちが出来る事は全員参加の町づくり教育の実施です。一人一人が教育に関心を持ち、子どもも保護者も地域も一つになって黒潮町が良い町であることを実感出来る事がこれからの大きな一歩を踏み出すきっかけにしたいというのが基で、「育った町から未来を拓く黒潮の子」これは、黒潮で育て、よそに行っても、そのよその所で拓いて頂きたいし、黒潮町も同時に伸ばして頂きたい。「開拓する」自分から進んで自分の力で拓いていける逞しい人材が黒潮町から育ってもらいたいと大きな思いも込めて作りました。</p>
<p>教育委員 (山下)</p>	<p>それでは…、短いですが「夢を育み故郷をつなぐ」です。「夢を育み」は、子どもを中心に大人も含めた町の教育活動全般を指します。「故郷をつなぐ」は、皆さんが段々に言ってきた黒潮町の在り方です。</p>
<p>町長</p>	<p>先ほど教育長が言いましたが、振興計画が実によくできておりまして…。少し違うのは、振興計画の基本理念はどちらかと言うと「こう</p>

	<p>いう社会を作ります」というものですが、「こういった子どもになってほしい」と自分の分はなっていますので、そこは少し違うのでご審議頂ければと思います。それといくつか考えて来たのですが、この教育行政方針と振興計画のはじめにとか背景のところ、文書として盛り込まれるべきなのか、理念としてワードで出されるものなのか判断がつかなかったもので、用意してきました。（板書）</p>
副町長	<p>自分は、生きる力を身に付けるというところが欲しかったので、今出ている基本理念で自立・創造・貢献はそのままだと思うので、故郷とかは貢献の中に含まれるのかなというふうに思う。それと生涯学習社会というのは、昔、社会教育係という係があった時、生涯学習という言葉が流行りだした時からなんていい言葉だろうと、人生全部生涯学習みたいな事があって、それが好きで出ているまんま残しました。そこで全部を繋げたら「一人一人が尊重され、生きる力を身につけ、新たな価値、未来と希望を創造し、主体的に社会の形成に参画し、ふるさと黒潮町に貢献していくことができる「生涯学習」を構築する。」となりました。</p>
事務局（西村）	<p>真剣に考えて何回か読んだが、読めば読むほど直しにくい気がしましたし、そもそも根本的に変えてしまうのは駄目なのかなという気がしましたので、基本を守りつつ、その中で前回印象に残った言葉等、皆さんの思いをはめてみようかと考えながら進めました。（資料配付）</p> <p>「自立」の中では、生きる力というのが前回副町長の方からも出たんですが、生きるというのを活躍の「活」を含めた「活（生）きる力を身に付ける」というところをはめていきました。</p> <p>それから次の「創造」は、前回「守り伝えたい」という事がありましたので、良い言葉がありましたら本当は熟語に直したいところですけど…。例えば「創造・伝守」と書きましたが、「伝守」という言葉は無いので…。守るという言葉もはめたいという事で原文を少し変えてみました。</p> <p>「貢献」の方ももう少し分かりやすい言葉にしてみようかなと思います、少し直しました。</p> <p>資料の下の方に基本的な考え方としまして書いておりますが、基本計画の中で体験学習といったところを具体的に示すべきなのかなと思います。町長が言いましたように、どういった形で作っていくのか…、標語のような文言で作るのか、それとも元々あったような形で作っていくのか、どういう形がいいのかはまだ分かりませんが。大綱の趣旨ですが、他の市町村の計画でもありますが、見出しのような感じ</p>

の後に「こういう大綱の趣旨です。」という内容を示す形もあります。こういった「大綱の趣旨」の中でこれまでに皆さんから出ました「知る・愛着・貢献・つなぐ」といったようなことを入れて分かりやすく説明していくようにすればいいのかなと考えながら作りました。

では、次長お願いします。

(配付資料：西村)

「自立、創る・守る、貢献」

「自立」「創る・守る」「貢献」の3つの理念の実現にむけた生涯学習社会を構築する。

● (自立)

一人一人が多様な個性・能力を伸ばし、活(生)きる力を身に着け、充実した人生を主体的に切り拓いていくことのできる生涯学習社会

● (創る・守る) (創造・伝守)

地域を知り、歴史を知ること、地域に誇りを持ち地域が好きになる。そして、そこから新たな価値、未来と希望を創造していく。そんな、過去と現在、未来をつないでいくことのできる生涯学習社会

● (貢献)

故郷に誇り・愛着を持ち、何時、如何なる時、如何なる場所に居ても、周りの人々・地域・社会に支えられていることを意識し、故郷ひいては社会の形成に参画し貢献していくことのできる生涯学習社会

※基本計画の中で、「体験学習」といった具体策を記述する。

※「大綱の趣旨」として「知る、愛着、貢献、つなぐ」を記述する。

教育次長

今、皆さんのお手元に(資料配付)キーワードが3つ上げていますが、これがいいとは私も思っていません。むしろ今までの「自立・創造・貢献」の方がお勧めですが、それで終わってしまうと議論になりませんし、少し自分の思っている今の我々の置かれている社会状況というものを考えたときに、こういう視点も必要なのではないかということ議論していただくために、あえてこの3つの言葉を提示させていただきました。

1つは「畏敬」です。「畏敬」とは、他の尊さを、畏れと敬いを持って受け入れる心です。

次に「感謝」、生かされて生きる私たちであることを感謝する心。「貢献」その感謝の思いを持って自分が支え与える側に回る貢献の心。「畏敬の心」とは、私たちは常に周囲の人々や自然に支えられて生き

ています。畏敬の心とは、この生命の根源の尊さを、畏れと敬いを持って受け入れ、共感する気持ちです。

「感謝の心」とは、人は誰一人として独りで生きることはできません。いつも周囲の人や友人、地域の人たち、自然という世界に見守られ、支えられて生きています。人々の助力、自然の恵み、「感謝の心」とは、それらの事実に対する感謝の気持ちです。

「貢献の心」とは、周囲の人や、世界から支えられ、与えられることによって生きている私たちは、他のため、ふるさとのために、人々に喜びを与えたいと思います。貢献の心とは、飛躍させる創造力、様々な場に調和をもたらし、あらゆる状況を活性させる力をもつ心です。

とりあえず、皆さんのお手元にはそこまでの文字しか無いと思いますが、少しそれぞれの補足説明をさせていただきます。

まず、畏敬の心の補足説明です。私たちは誰もが、自然の中で生かされています。木々や森に支えられ、大地に支えられ、川や海に支えられ、私たちは生活しています。しかし、しばしば私たち人間は、自然を自分の外に見て、自然を征服、コントロールできるかのように錯覚してきました。しかし、大自然の猛威の前に、そのことが幻覚であることを、私たちは気づきました。また、簡単に人の命が奪われる事件を見聞きするたびに、命の尊さが軽んじられることに私たちは心を痛めます。私たちは、人間の力を超えた自然の力に支えられ守られ、多くの他者に支えられ守られ生きていくことができているという、基本的なことを、もう一度自覚する必要があるのではないのでしょうか。ただし、畏敬の念という言葉ですが、平成17年の教育基本法改正の過程で「愛国心教育の土台をなすものである」という懐疑的な意見があったことは、理解しておかなければならないと思います。

続いて感謝の心の補足説明です。人は誰一人として、自分だけで生きることはできません。有形無形の助力によって生かされています。私たちは、生きていく上で、その当たり前のことを忘れていたような気がします。その当たり前のこと感謝しながら、今度は自分が支える側に回る。感謝の心は、貢献の心を持つために、最も必要な心なのではないかと思います。

最後に貢献の心の補足説明です。日本的な哲学を追求した和辻哲郎は、「人間は人と人との間を、あるべき形でつなぎたいという欲求を、根本のところを持っている」と言っています。つまり、人には生まれもって、「貢献心という本能」が備わっているのだ、ということです。

また、先にノーベル医学生理学賞を受賞した、北里大学 大村智特別栄誉教授の受賞のインタビューで「何か一つでも人のためになることができないうか、多くの日本人がそう考えてきた。私もそれに連なる

一人だ」と答えています。「人のために尽くしたい」これは日本人が当たり前前に持っていた精神性ではなかったでしょうか。しかし今の私たちの社会を見てみると、経済中心の「唯物主義」自分さえよければいいという「利己主義」今さえよければいいという「刹那主義」の世の中で、「何か一つでも人のためになることをしたい」と思う人が減っているのではないのでしょうか。教育は、そのもともと個人が本能として持っている「貢献する心」を引き出し、磨きを掛ける行為なのではないかと思えます。

ということで、私の提案理由を終わります。

しかし、修身のような言葉なので、果たしていいのかどうか私は疑問です。議論の種として考えていただければ…。

(配付資料：畦地)

黒潮町教育大綱教育理念（案）

畏敬 感謝 貢献

- 他の尊さを、畏れと敬意をもって受け入れる「畏敬の心」
- 生かされて生きている私たちであることを「感謝する心」
- 感謝の思いをもって、自分が支え与える側に回る「貢献の心」

「畏敬の心」とは・・・

私たちは常に周囲の人々や自然に支えられて生きています。

「畏敬の心」とは、この生命の根源の尊さを、畏れと敬意を持って受け入れ、共感する気持ちです。

「感謝の心」とは・・・

人は、誰一人として独りで生きることはできません。いつも周囲の人や友人、地域の人たち、自然という世界に見守られ、支えられて生きています。人々の助力、自然の恵み、「感謝の心」とは、それらの事実に対する感謝の気持ちです。

「貢献の心」とは・・・

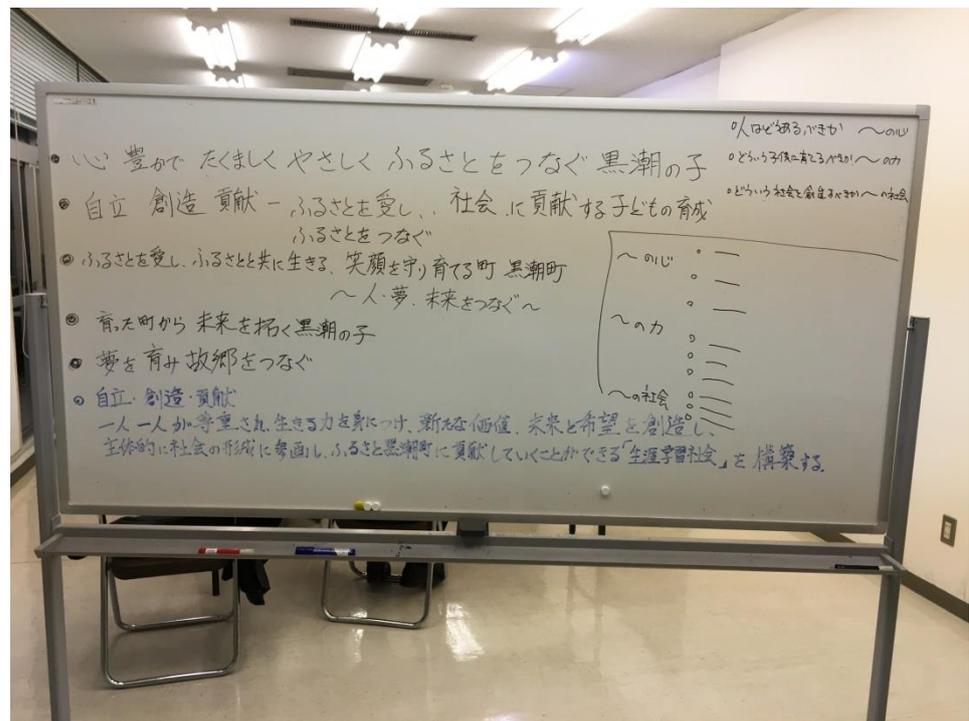
周囲の人や、世界から支えられ、与えられることによって生きている私たちは、他のため、ふるさとのために、人々に喜びを与えたいと思えます。

「貢献の心」とは、飛躍させる創造力、様々な場に調和をもたらし、あらゆる状況を活性させる力をもつ心です。

<p>教育長</p>	<p>次長の提案は、すばらしいですけど難しい部分があり、皆に受け入れられるか考えたとき、若干分かりにくい部分がある気がします。理念として広く提案したときは。</p>
<p>町長</p>	<p>これを考えるにあたって、「どういう社会か…」という切り口ではなく、「どういう子どもが…」という切り口なので「どういう子どもに育ててほしいか」が一つの判断といいますか、作成するときの起点になったんですけど、いろいろ「貢献」の話をさせていただき、「ふるさとをつなぐ」話をさせていただいて、それは何とか盛り込んでいただきたいと思います。それは背景に盛り込まれるのか、理念として抽出されてセンテンスで示されるのかは別として。ただ、最近近所の子どもたちと触れ合うなかで、自分たちにとって少し違うのかなと思うこともありまして、なんと言えればいいのか…もう少しわがままでもいいのかなと思ってみたりもします。なので「ふるさと」のフレーズや「貢献」のフレーズだけで終わってしまうとどうなのかと思ってしまいます。もう少し攻める子どもも育ててほしいという思いもありまして…。</p>
<p>教育長</p>	<p>いわゆる主体性の部分ですよ。</p>
<p>町長</p>	<p>そうです。</p> <p>基本計画ですが、さっきの文章で引っ掛かるのは…、例えば背景ですけど、実際にネガティブなファクターがあってこういうことを盛り込まないといけないという思考の方向性をもって、作り上げなければいけないこともあろうかと思いますが、否定的な文章が入るのは少し違和感があります。「社会規範意識の低下」というフレーズであったり、ここも多分捉える方にとってみるとどうなのかというところは、「物質的豊かさ」「のみ」と書いているので理解はできるが、「経済至上主義を見直し」このフレーズも少し言い回しが強いような気がします。背景と理念とが全体的に肯定された文章と短いフレーズで構成できないかと思っています。</p> <p>前回も言いましたが、せめて中学生が読んでも理解が出来るような形で、且つ全体的に肯定的なイメージで捉えられていて、その上で故郷に誇りがもてるような文章が出来ると非常にいいのではないかと思います。現在の基本計画の背景の中にも私が好きなフレーズがありまして、「町は人でできている。人がいなければ町は存在しない。」でして、町を構成する人に自分たちが誇りを持てれば、町にも誇りが持てて好きになるのではないかと、私はそういう捉え方をしています。</p>

事務局（西村）

皆さん、この時間帯少し分かりにくくなっているのではないのでしょうか。町長の話が背景に踏み込んだものになりましたので。皆さんには理念の提案をしていただいておりますので、少し戻しまして。理念を考えるうえでは、背景がないと考えにくい部分もあります。後ろのホワイトボードに皆さんから出された意見を書いておりますので、その中で何かご意見等があれば出してください。



町長

構成をどうするかを考えましょうか。

これまでのような振興基本計画にある理念の書き方でまとめたものと、私のように理念と背景が一緒になったようなまとめ方をしたものと、次長のような新しいスタイルが出ました。どういう伝え方を、どういう表現をするのか…。

まずは整理しやすいところから行ったらと思います。今の基本計画の理念は「どうい社会を創るか」ということが切り口になっていて、今日皆さんからご提案頂いたのは「どうい社会を創るか」ということと「どうい子どもを育てるか」という両方が交ざっているので、「どうい子どもを…」ということにするのか、「どうい社会を…」ということにするのか、あるいは「どうい子どもを…と、どうい社会を…」提起するのか、そこら辺を整理したらどうかと思います。

教育長

難しいですけど「どうい社会にしていくか」「どうい郷土にし

	<p>ていくか」という部分がないと、そこに繋がっていきにくいので、教育の部分だけでは小さくなりすぎるかもしれない。</p>
町長	<p>私が考えてきたものには、生涯学習の観点がないので…。</p>
教育長	<p>ただ、あえて生涯学習を入れなくても根底にあるものは、こういうものがあるということは後でも書ける。後段に説明が書ける。あえて理念の中にそこを入れるのかということですね。</p> <p>この町の教育基本振興計画の基となった国の「自立・創造・協働」という部分は「今後の社会の方向性」というふうに示してですね、その中に4つの項目を挙げています。1つ目は「社会を生き抜く力の養成」ということで、2つ目は「未来への飛躍を実現する人材の養成」、3つ目は「学びのセーフティネットの構築」、4つ目が「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」という4段階に分けて、それを具体的に項立てしている。この「自立・創造・協働」はそのどれにでも当てはまる。</p> <p>ただ力を入れるべきはやはり「教育」の部分ではないかと思います。特に教育委員会（町）が役割を持っているのが義務教育です。</p>
町長	<p>（理念を作るにあたって）文章にする方がらくですか？この中でショートセンテンスで抽出してというのも難しいですよ。</p>
事務局（西村）	<p>以前の会議で、教育長からは、あくまでも「教育」教育を基本に考えた大綱、「教育大綱」の策定を。町長からも確認事項として、そもそも教育部門の中に行政の部分が少しリンクするような…、それは体験学習であったり、町長部局で取り組むことなど。これまでの教育振興基本計画に町長部局の部分が少しリンクするイメージで作成できれば…ということが出されていきました。</p> <p>「自立」「子どもの持つ可能性」ということが、これまでの会議では皆さんから多く出されていたことなので、そこは教育を中心に考えたときに、外すべきではないと思います。そもそもある国が出しているもの、県が出しているもの、町が出しているものについては、一定引き継ぐべきではないかと考えます。皆さんもそのことをベースに考えていただき、前回会議でいろいろ意見が出された結果として「故郷への貢献」を入れたいといったことがあったと思います。</p> <p>町としましては、行政（町長部局）として思う「貢献」、例えば「地元に残ってもらいたい」といったことですかとかが大きく出てしまいましたが…。</p>

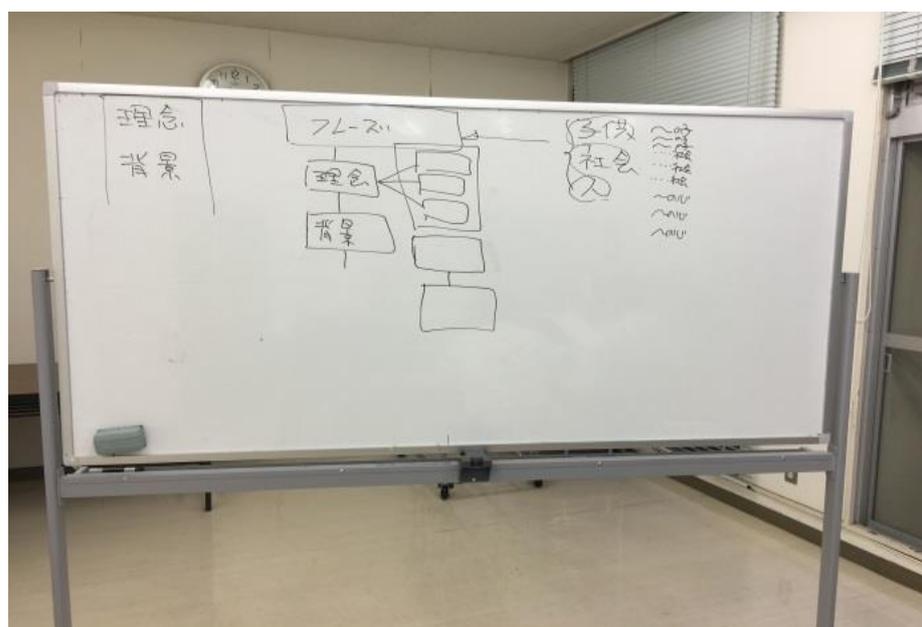
	<p>やはり大綱を策定するにあたって、今あるこの形（教育振興基本計画）をベースにするのが作りやすのかなと思います。</p>
教育長	<p>前回町長の方から話があった「ふるさと」「地域」のことを入れたいということですが、地域を担う人材の育成ということを入れるということになると、「貢献」と「自立」の中へリンクした形で入ることになるのではないかと。そして教育の部分で出来ることはどのようなことかという具体的な中身を盛り込むことになるが、それはあくまでも貢献する場所はいろんな場所にあるけれども、地域の中で貢献できる子どもを育てたいということを強調したものを考えていくのか…。</p>
町長	<p>明確なものは入れにくいかもしれませんが。思い切って「ふるさと」を入れますか？例えば「自立・創造・貢献」があつて…。</p>
教育長	<p>私は「ふるさと」が入ってもいいと思います。基本にあるのは「故郷に誇りを持って、故郷を愛するという気持ち」で、その上でいかに故郷に貢献できるかという部分に繋がっていくと思います。</p>
町長	<p>貢献の中へ内包されるのではなくて、単語として別途に入れたらと。</p> <p>大綱は基本目標までですよね。理念と背景の補足、趣旨説明があつて、基本目標がある。背景は、基本目標に盛り込まれればいい感じですね。</p>
事務局（西村）	<p>他所の市町村を見たときに、理念の示し方が、国の形式をベースに少し変えた感じのもの、項目を羅列したものがあります。ただ、個人的には、今ある形が分かりやすいと思います。</p>
教育長	<p>スタイルとしては、このスタイルがいいと思います。それぞれの言葉の説明を簡単にしている。</p>
事務局（西村）	<p>若しくは、皆さんから出されたものが、まずあつて…例えば「ひと・夢・未来をつなぐ」があつて、下に「自立・貢献」がくるとか、「夢を育む、故郷をつなぐ」というフレーズがあつてなど、少しスタイルを変えるくらいがいいのではと思います。</p>
教育長	<p>「自立・創造・貢献」というのが良く出来ているので、これを外すと他の言葉が思い浮かばない。</p>

事務局（西村）	次長から出た「畏敬」という言葉は、あまり使ったことがなかったので。
教育次長	道徳の教科書の中には出てきます。先ほども説明しましたが、この言葉に違和感を持つ人がいるのも事実です。ここに出していますけど私自身もふさわしいとはあまり思っていない。
事務局（西村）	作り方として、今あるものの下に、皆さんから出された「こういう人を育てます」「こういう子どもを育てます」とか「貢献の意識を持った人」のような言葉を持ってくるとか…。もう一つは、基本理念の下に、箇条書きのような「こういう人を…」 「こういう教育を…」といったものを入れていくようなやり方。また、理念であるとかの形ができたあとに、その思いや説明が下に入るといった形もあるのかと思います。
教育委員 （都築）	文章に対していろいろな捉え方があっていいと思う。ただいきなり入ってしまったらそれだけの解釈になってしまう。どういう文章になるのかは分からないが、読む側がいろんなことで想像していくというのもいいのでは。
町長	どういう社会を作るかという理念のあり方と、どういう人間を作るか…人間を作るというのはおこがましいですけど…理念のあり方で表現が変わってくると思いますけど。例えば、社会という切り口で「自立・創造・貢献」がありますが、「心」というフレーズで「自立の心」「創造の心」で、社会ではない切り口でそれが謳えれば、生徒の人格に主体性が移行するようなものにも出来るのかなと思ってみます。先ほども事務局からも出ましたが、皆さんが考えたフレーズがまずあって、その下に理念でそれぞれから出されたものが数点あって、最終的には趣旨がご理解いただけるような背景・説明的なものがかかるようにすると、割と分かりやすく整理ができるかもしれません。
教育次長	「修身」と言ったのは、「人はどうあるべきか」と言っているんですね。というような理念にするのか、我々は人を作るために、社会のためにこうしますといったような意志を示すための言葉として理念を書くのかによって使う言葉が違ってくると思います。我々はやっぱりどういう社会なり、人を作るんですよという意思表示をするための言葉として理念は作らなければいけないので、私が示したものがちょっと理念としてはふさわしくないというのは、人はどうあるべきかで

	<p>終わっている。なので、皆さんに説明はしましたが、理念としてはどうなのかという思いがあります。ただ、こういった背景というか…こういった意識が必要かなとは思いますが。</p>
町長	<p>表看板1枚で2本立ていくというのはどうでしょう。多分今出ているフレーズであるとか発言というのは、どういう人を作るのかということと、それを達成するためにどういう社会を創るのかということの、大きく分けるとこの2つになると思います。表看板に「こういう人と、こういう社会を創る」ということを短く表現できれば、「心」のところで、ポンチの計画にあるような「社会」という切り口の両方できると思うんですけど、あまり両方に有りすぎると混乱してメッセージ色が弱くなってしまうので整理をする必要はあると思いますが。</p>
教育次長	<p>理念には使わないとしても、人として、人間としてどうあるべきかというところを文章の中に入れるということは一定必要かと思えます。なので、そういったことからいくと私の出したフレーズは使えるかもしれません。「人としてどうあるべきか、そのために教育は何をすべきか」説明文として書くのであれば…。いきなりこの理念を使うのは受け入れにくいと思います。やはり理念としては「自立・創造・貢献」がいいのではないかと思います。</p>
事務局（西村）	<p>一つ分からないのは、矛盾すると言いますか…、例えば「ここでこういう人を育てます。こういう社会を創ります。」と言い切った時に、町長が先ほど言いました「良い意味ではみ出る」ということを考えたときに、皆が同じ方向でといますか、全体的にはいい人・人間が育つのかもしませんが、個性・突出した才能といったものが出にくいといったことになりはしないかと思ったりしますが…。</p>
教育長	<p>私は「自立」の中に「生きる力」というのを盛り込みたいと。これは学習指導要領の中に謳われていますが、ものすごく幅の広い言葉だと思います。「生きる力」というのは、いろいろ生き方はあるけれども、やはりそれを生き抜いていける力を付けるということは、多様性を認めたくえで伸ばしていく教育をしていく。自立の中には一人ひとりの生きていく力をしっかり付けていくという基本は外したくないと思いますが。</p>
教育次長	<p>この教育振興基本計画を作る時に、自立については、律する方にするのか、立つ方にするのか議論をしたことを覚えています。結果的に</p>

	<p>「立」にしたんですけれども律する方にもそれなりの意味があるにはありましたが。</p>
町長	<p>表看板ですが、出た言葉をお借りさせていただくと、例えば「豊かな心と生きる力を。誰もが活躍できる社会を構築する」というような看板があって、下に項目がくるといふ形になると。</p>
町長	<p>今日いろいろご意見をいただきました。前回も出たようなご意見もありましたし、今日初めて聞くようなフレーズもあつたりと、すごく有意義な意見が出されたと思います。前回お話ししたように、大綱で理念と背景、基本目標を策定するわけですが、まず理念があつてその背景がきて基本目標がある…といったようにぼんやりとイメージしていましたが。今日次長から出されたものは、少しこれからフォーマットの柔軟に考えていいのではないかというご提案ではなかったかと思ひます。今日いただいたご意見を大雑把に分類すると「どういふ子どもにしたいか」といふことと「どういふ社会にしたいか」、次長から出されたものは「人ですね。子どもとか大人がどうあるべきか」といふことだと思ひます。切り口としてはこれくらいだと思ひていますが、理念にこれをどういふ構成で盛り込むのかといふことだと思ひますが、多分叩き台がないとイメージしづらいいと思ひますが。</p> <p>フレーズがあつて、理念があつて、趣旨説明があつて、これは背景といふことになりますか。最大に分けてもこれだと思ひます。それに今日出てきたものを何処にどういふ形を取り入れて、突合させてみる。中には除外するものもあるでしょうし。</p>
教育次長	<p>フレーズといふのは、いわゆるキャッチコピーみたいなものですか。</p>
町長	<p>そうです。表表紙にでる感じですが。ただそれだけでは理念として使ひにくいので、もう少し具体で理念を作つて、今日出てきたご意見とか私の出したものは、文章で盛り込んだ方がいいのかもしれない。もちろん中には、理念に使わせていただきたいものもありますし。</p> <p>フレーズがきて、理念が3部構成くらいで、背景が来るような形は…。(ホワイトボード参照) 少し複雑すぎますか。</p>
教育次長	<p>あまり理念で情状にしゃべりすぎると背景まで行き着かないので。私は前にも言ひましたが、理念といふものは北極星のようなものだと思ひています。掴めない。掴めないもの。けれどもそれがないと</p>

正しく航海ができないもの。それが理念ではないか。掴めるものは、まさしく目標であって、理念というものは見えるけれども、そこを目指すのだが、決して到達地点ではない。到達地点は、それぞれの目標である。それが理念かなと思っておりまして、非常に私の中では言葉として崇高なものを意識します。小学生では分かりにくい、中学生でも理解できにくいぐらいのものかなと。



町長 今日出たものを参考に、また次回までに各自でまとめてくるというのはどうでしょうか。ここまで出来れば、目標は出やすいと思います。

教育次長 背景なんかは、文章化するというより、箇条書きでもいいのではないのでしょうか。こういうことを目指すとか、こういうふうになるのが望ましいとかといった思いついた言葉を箇条書きにすればいいのでは。

町長 次回の会議では、ここまで（ホワイトボード）を決定しましょうか。これからが本格的に外部のご意見をいただかなければいけなくなるとはありますが、ここまでは自分たちで作らしようということでしたよね。仮に教育現場がこうであっても、私たちはこうです。といったものを持つということで皆さんと合意形成できているということで確認していいのでしょうか。次回、ここまで決定していくということで問題ありませんか。

（全員で確認、了承。）

事務局（西村）	それでは、次回の会議も定例教育委員会の後ということで、24日で調整をお願いいたします。
---------	---